

お酒（アルコール）は、とても身近な飲み物で、古くから「百薬の長」として愛飲されてきました。皆様の中にもこれなしでは……という方がいらっしゃるのではないのでしょうか？ 適量のアルコールは、血行を良くするなど体に良い作用を示し、考え方次第では“くすり”ともいえます。しかし、アルコールは薬物（くすり）の作用に影響を与えることがあるので注意が必要です。アルコールの量によって、くすりが効きすぎたり、逆に効きめが弱くなってしまったりすることがあります。その原因には、主に肝臓の複雑な代謝機構が関与しています。また、ドリンク剤や清涼飲料水の中にもアルコールを含むものがあるので注意が必要です。くすりがアルコールの影響を受けると考えられる事例のいくつかを紹介します。

- アルコールによって、抗アレルギー薬の抗ヒスタミン作用が増強され、眠気などが強く現われることがあります

ます。

- 経口糖尿病薬を服用している方がアルコールを摂取すると、くすりの種類やアルコールの量によって、

くすりが効き過ぎて低血糖状態になったり、逆にくすりの効果が弱まったり、顔面紅潮が現われたりする

ことがあります。

- 高血圧で降圧利尿薬を服用されている方では、アルコールの影響で血圧が下がり過ぎ、めまいを起こす

ことがあります。

- 血栓症などの治療・予防に用いられるワルファリンとアルコールを一緒に服用すると、くすりの効きめが

強く現われ、出血が止まらなくなることがあります。

- アルコールをよく飲む方が、アセトアミノフェンという解熱鎮痛薬を服用すると代謝が促進され、肝毒性を

もつ代謝産物に変わり、肝臓に悪い影響を及ぼすことがあります。

また、アルコール常飲者（多飲家）とそうでない方、肝機能が正常な方とそうでない方でくすりの効きに大きな差が現われる場合もありますので注意が必要です。以上のことから、お酒とくすりを一緒に飲むことにより、予期せぬ相互作用が起きる可能性があることが、お解り頂けるのではないのでしょうか。お酒の飲みすぎに注意すると共に、くすりの服用中にお酒を飲む可能性のある場合には、担当の医師、薬剤師にご相談願います。